

平成 24 年 7 月九州北部豪雨災害における福岡県八女地区における土砂災害の実態について

福岡県土整備部砂防課 瀬口 貴光
 福岡県八女県土整備事務所 中村 桂至
 国際航業株式会社 ○小段 應司, 曾我 智彦, 宇城 輝

1. はじめに

平成 24 年 7 月 11 日から 14 日にかけて大分県、熊本県、福岡県にかけて梅雨前線に伴う集中豪雨が発生した。この大雨は“九州北部豪雨”と名づけられ、福岡県南部に位置する八女地区においても多数の降雨観測所で過去最大値（547mm/24h、102mm/h）を観測した。この降雨の影響により、八女市（旧黒木町、旧星野村、旧上陽町、旧立花町、旧矢部村）、広川町を中心とした八女地区内では広範囲にわたり土石流、がけ崩れ、地すべり等による土砂災害が多発した。その結果、死傷者、全半壊家屋が多数生じ、かつ県道、市町村道の寸断による孤立化が随所で生じ、甚大な被害が発生した。本発表は、福岡県内を対象として、九州北部豪雨における土砂生産・流出状況（主に八女地区）、被害状況、警戒避難状況等の実態に関して報告するものである。

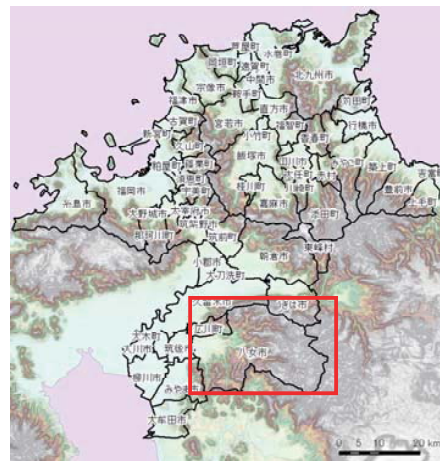


図-1 調査対象範囲[福岡県八女地区]

2. 平成 24 年 7 月九州北部豪雨における土砂災害の実態

2.1 土砂生産・流出実態

九州北部豪雨による八女地区内で発生した崩壊は、全体で約 2,700 箇所、100 万 m² に及び、崩壊面積率は約 0.2% である。崩壊が特に多発した流域は、矢部川では笠原川流域、星野川では広内川、龍川内川、星野川上流域である。九州北部豪雨以前の崩壊地の多くは矢部川上流に位置する日向神ダム上流で発生していた（図-2 参照）。土砂生産の場合は、その多くが山間地源頭部（写真-1 参照）で

表-2 降雨と崩壊地の分布状況

あるが、星野川本川や笠原川（矢部川支川）の本川河道においても多数の箇所でも河岸・溪岸部における侵食流出が確認されている（写真-2 参照）。

雨量区分	対象範囲内面積(km ²)	崩壊地			雨量区分ごとの面積当たり崩壊面積(m ² /km ²)
		個数	面積(m ²)	比率(%)	
-300mm	31.7	23	8,607	1	272
300-350mm	45.5	240	46,114	5	1,013
350-400mm	109.2	476	129,452	13	1,186
400-450mm	133.6	730	239,221	24	1,791
450-500mm	87.9	481	249,264	25	2,835
500- mm	76.0	753	335,172	33	4,413
合計	483.9	2,703	1,007,830	100	

表-1 土砂生産状況

水系名	流域面積(km ²)	崩壊地区分	個数	面積(m ²)
矢部川	300	ダム捕捉	49	72,621
		地すべり	1	6,360
		土砂災害痕	8	7,095
		崩壊地	980	387,029
		崩土・土砂流出痕	167	232,793
		流下・堆積痕	68	74,454
		合計	1,273	780,352
星野川	145	ダム捕捉	59	142,254
		地すべり	21	81,147
		土砂災害痕	40	27,000
		崩壊地	1,598	598,882
		崩土・土砂流出痕	171	193,884
		流下・堆積痕	185	202,748
		合計	2,074	1,245,895
筑後川(広川)	39	ダム捕捉	1	381
		地すべり	0	0
		土砂災害痕	0	0
		崩壊地	87	21,918
		崩土・土砂流出痕	13	5,445
全体	484	ダム捕捉	109	215,255
		地すべり	22	87,507
		土砂災害痕	48	34,095
		崩壊地	2,665	1,007,830
		崩土・土砂流出痕	351	432,102
流下・堆積痕	255	279,204		
合計	3,450	2,055,993		



写真-1 崩壊源頭部[矢部川笠原川うどう川]



写真-2 河岸侵食崩壊 [星野川本川]



写真-3 土砂流出状況 [うどう川支川下流]

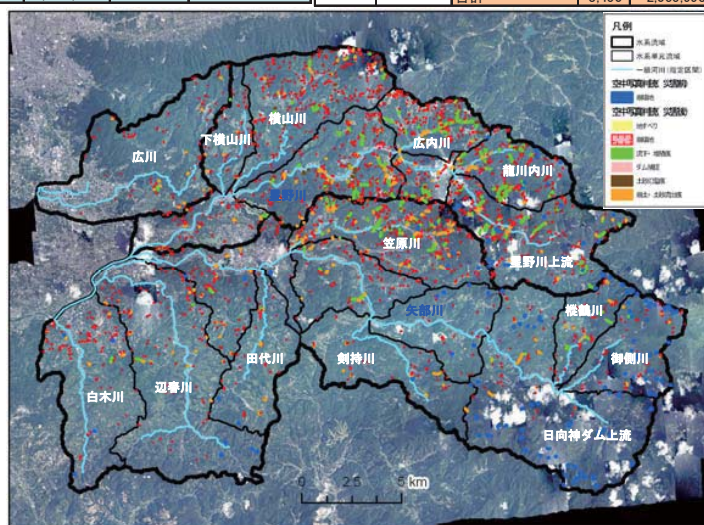


図-2 崩壊地位置図(背景写真: 災害 1 ヶ月後撮影)

